

# 進修同窓会報

発行 土浦一高進修同窓会  
編集 同窓会会報編集委員会  
〒300-0051 茨城県土浦市真鍋4-4-2  
ホームページ <http://www.sin-syu.jp/>  
Eメール [shinshu@tsuchiura1-h.ibk.ed.jp](mailto:shinshu@tsuchiura1-h.ibk.ed.jp)



## 同窓会長あいさつ

会長 小野 治

(高9回)

4月に開催された本年度の進修同窓会総会におきまして、大野金一会長のご勇退の後を受け、会長に就任いたしました。元より浅学非才の私ではありませんが、母校の発展のために全力を挙げる所存ですので、同窓会の皆様からの絶大なご支援とご協力とを心からよろしくお願ひ申し上げます。

本校は、まもなく創立130周年を迎えると同時に、卒業生も37,000名を超えると同時に、全国有数の名門校であります。ここ数年間に亘りまして、国指定の重要文化財である旧本館の完全復原、特別教室の全面改修、プール前へのトイレの新設など、学校側と一体となつて、長い間の課題を解決してまいりましたが、最大の懸案は、普通教室の抜本的な改装であります。現役の生徒たちが日常生活の中で最も必要としているのは、優れた教室環境でありますから、この整備は早急に実現されなければならぬと考え、多方面の方々と協議を重ねた結果、本年度は、この工事の設計に係る予算が計上される予定であります。天井・床・壁に木材をふんだんに使つた、ぬくもりのある教室に、と強く要望しております。資

材費や人件費が予算化される来年度には、新装成つた教室が御目見得するもの、と大きな期待を寄せているところでもあります。また、茨城県の教育制度が大きく変わります。また、令和3年度に附属中学校が併設され、毎年80名の中学生が入学しています。その分、高校のクラス数が減少し、学年全体の卒業生が減少することになり、同窓会の財政上、新たな課題となっております。

いずれにせよ、伝統ある進修同窓会の会長職をお引き受けすることは、これらの困難な問題を解決することに外ならない、と思量するのであります。明治30年の開校以来の、歴史ある、一貫した、文武両道の精神の下、全国的にも誇れる学力水準にまで高められた母校の、更なる充実に寄与する同窓会でありたい、と考えます。同窓生同士の絆をより確かなものにし、諸活動を活発化して、母校を物心両面で支えていく同窓会を目指したい、と強く念じているところです。改めまして、母校土浦一高と附属中との益々の発展と会員の皆様の更なる活躍とをご祈念申し上げます、ご挨拶とさせていただきます。



### 校長あいさつ

校長 プラニク・ヨゲンドラ

ナマステ！皆様の母校である茨城県立土浦第二高等  
学校・附属中学校長のよき(プラニク・ヨゲンドラ)で  
す。校長2年目になりますが、本校の様々な活動にお  
いて、同窓会の皆様には様々な形でお世話になってお  
り、大変心強く感じております。

学校全体として、コロナ禍を乗り越え、教育活動を  
活発化する中、進学実績が右肩上がりを示していま  
す。生徒は授業のみならず、特別活動、探究学習、学  
校行事などあらゆることに励んでいます。科学の甲子  
園、弁論大会、プレゼンテーション大会、美術展、模擬国  
連などに積極的に参加し、高い実績を残しています。  
学校インフラですが、昨年度は特別棟の内装工事が終  
わり、来年度は本館の内装工事を予定しています。

ご存知のように3年前に本校では附属中学校が設  
置されました。本年度は附属中学校を終了した80  
名が内進生として高校に進学し、高校から入学した  
160名の高入生と合わせて240名でスタートしま  
した。1年次(2024年度から単体制を導入)は高入  
生4組、内進生2組それぞれ分かれて授業を受けてい  
ますが、体育、部活動や課外活動を一緒に行う場面も  
あります。高校2年次になったときに内進生と高入  
生を融合させる予定です。

こうした一方で、全日制では、昨年度は東大、医学、  
東北大への進学者が増えました。今年度は進学実績  
を更に伸ばしたく教職員が生徒の支援を行っていま  
す。今年度は海外に留学する12生が急激に増えてい  
ました。世界を自分の目で見て、リーダーシップが養われ  
ることを期待しています。海外留学には多額の費用が  
かかるため、交換留学の導入を模索しています。今年  
から2年生が秋に修学旅行を実施します。今年度は沖  
縄ですが、来年は台湾へ行きます。地元(土浦)の大学、高校  
と交流を行い、企業や博物館を見学し、日本においては  
できないことを体験してきます。更に、探究学習にお  
いては来年度からビジネス、マネジメント、DX情報技  
術、理系探究、文系探究などから選択できるよう検  
討しています。

附属中学校は活発です。授業に力を入れているこ  
とはもちろんですが、様々な課外活動を企画し、豊富  
な学びにつなげています。今年度は陸上、水泳の実績が  
目立ちました。関東大会、全国大会に出場する生徒  
が出現しました。吹奏楽部は県吹奏楽コンクールにて  
水戸市民会館で素晴らしい演奏を披露し、科学部は  
科学の甲子園ジュニアにおいて県大会3位を獲得しま  
した。海外の学校、国内の外国人学校との交流も行  
い、多様性を肌で感じたと思います。

定時制では、4月に37名の入学生を迎えました。志  
願者がこれだけ増えたのは生徒による口コミの影響だ  
そうです。今年度の卒業生について就職支援を行うと  
共に、4年制大学への進学に力を入れています。生徒  
は学校行事を自ら企画し、eSportsなどを取り入  
れて変革を起こしています。来年度は探究学習、キャ  
リア教育やインターンシップに力を入れようと考えて  
います。今年度も部活動においても頑張ってくれまし  
た。バスケットボール部、バドミントン部、陸上部が全国  
大会に出場しました。

ところで高校からの全日制入学枠が、8組320名  
から4組160名に半減し、入学が更に難しくなりま  
した。地域の児童生徒にとつて、本校が遠い存在にな  
らないよう、学校の変革とプロモーション、地域と学校  
との連携に力を入れる必要があります。学校の変革  
は「不易流行」を意味します。難関大学への進学実績  
を伸ばしつつ、文武両道を維持しながら、生徒に実践  
的で豊富な学びを提供し、海外への進学も含め幅広い  
進路を促すような変革を目指します。

また、本校生徒に対し、自己分析・自己理解、セルフ  
マネジメント、タイムマネジメント、学習方法、リーダ  
ーシップ形成、人格形成などにおける具体的なツールを  
如何に提供できるかが、本校の更なる発展への鍵を握  
ると考えています。今まで以上に、同窓生の皆様方の  
力をお借りして実現していきたいと思っておりますので、何  
卒よろしくお願ひ申し上げます。

### 新任職員紹介



定時制教頭 田中 豪一(高44回)  
同窓会の皆様には、平素より格別のご高配  
を賜り、厚く御礼申し上げます。  
この度の定期人事異動により、定時制教頭  
を拝命しました田中と申します。母校で奉職  
できますことを大変光栄に存じますとともに  
に、その重責に身の引き締まる思いです。

これからの時代を生きる生徒たちは、テクノロジーやグローバ  
ルの急速な進展に対応し、先行き不透明で予測困難な出来事に立ち  
向かっていかねばなりません。生徒たちが社会に出た後を見据え、  
個に応じたきめ細かな支援をより一層充実させて参りますので、引  
き続きご支援、ご協力の程よろしくお願ひいたします。



附属中教頭 浅野 洋平  
今年度、栄えある土浦一高の附属中学校に  
赴任しました、浅野と申します。私の父の母  
校であるこの学校に関わることができると  
を大変光栄に思っています。  
さて、本校での私の役目は、志をもって入  
学してきた生徒たちをさらに高い志とともに  
人間的に成長させること、そして、附属中に憧れ、入学を志す小学  
生に本校の魅力を大いに伝えること、この2つが特に大きい仕事だ  
と考えています。

「今」を一生懸命生きる生徒の熱い気持ちを全力でサポートする  
決意です。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。



副参事兼事務室長 諸岡 重彰  
進修同窓会の皆様には、日頃より本校発展  
のため格段のご理解とご協力を賜り、厚く御  
礼申し上げます。今年度の定期人事異動に伴  
い、事務室長として赴任しました諸岡と申し  
ます。

高い志を持った生徒たちが更なる成長を図  
れるように、そして土浦一高及び附属中学校が更に発展するよう  
に、同窓会の皆様のお力をお借りしながら微力を尽くして参ります  
ので、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

令和6年度 定期総会開催される

去る4月27日(土)に、令和6年度進修同窓会定期総会が、母校体育館において、周年祝賀卒業生等を含む約350名(昨年度より約100名増)の出席を得て、開催されました。

総会では、冒頭で、応援指導部のリードの下、吹奏楽部・弦楽部の伴奏に合わせ、出席者全員で、校歌を声高らかに斉唱しました。物故会員に対する黙祷後、大野金一会長(高8回)からは、5年間の在任中の組織改革への取り組みなどについての、プラニク・ヨゲンドラ校長からは、この1年間の成果・今後の抱負を含めた挨拶が、それぞれありました。

議事に入り、令和5年度事業報告及び決算報告・別途積立金決算報告、監査報告に続いて、大野金一会長の退任、小野治副会長(高9回)の新会長就任を含む役員改選案が提出され、令和6年度事業計画案及び予算案とともに、原案どおり承認可決されました。その後、大野金一前会長・長瀬宗男前副会長(高11回)・古徳利光前同窓会副会長兼前つくば支部長(高9回)・大森前事務室長に対し、小野新会長から感謝状の贈呈があり、最後に、次年度の総会は、令和7年4月26日の予定であることが、事務局から発表されました。

総会は以上で終了し、休憩後、大型スクリーン(同窓会から学校に謹呈したもの)を使用し、本会が助成する事業の1つで、12回目となる「生徒海外研修SEG(参加者・男子生徒13名・女子生徒15名、引率教員2名、研修期間・令和6年3月17日〜25日、訪問都市・ワシントンDC及びボストン)」に参加した生徒の代表から、結果報告がありました。発表者6名のうち5名が女子生徒でありましたので、出席OBからは、女子の活躍・躍進に感嘆の声が上がりました。



引き続き、同会場で、以下の学年の卒業周年祝賀式が執り行われ、祝辞を須田義之氏(高27回)が、謝辞を小松崎隆氏(高26回)が、それぞれ述べられました。定時制からは、祝賀回表として、山中輝男氏(定14回)が出席されました。

卒業60周年・高16回(昭和39年3月卒)、定14回(昭和40年3月卒)

卒業50周年・高26回(昭和49年3月卒)、定24回(昭和50年3月卒)

卒業40周年・高36回(昭和59年3月卒)、定34回(昭和60年3月卒)

卒業25周年・高51回(平成11年3月卒)、定49回(平成12年3月卒)

卒業15周年・高61回(平成21年3月卒)、定59回(平成22年3月卒)

祝賀式終了後、それぞれの懇親会は、幹事諸氏のお骨折りで、「卒業60周年」・「卒業50周年」・「卒業25周年」・「卒業15周年」は、「ホテルマロウド筑波」で、「卒業40周年」は「ロープ」に移動して、開催されました。久し振りの再会とあって、各会場は和やかで活気に溢れ、恩師旧友ともども時を忘れてのひとときを過ごしている様子でした。

《追記》総会の会場設営に当たっては、当日早朝より、生徒・教職員合わせて182名の協力を得ることができました。ありがとうございました。総会資料については、同窓会ホームページ別添ファイルをお開き下さい。(本部事務局長 高21回助川博夫)

令和6年度役員(敬称略)

9月30日現在

顧問・幡谷浩史(高4回)・青山和義(高8回)・大野金一(高8回)・長瀬宗男(高11回)・プラニク・ヨゲンドラ(校長)

会長・小野治(高9回)

副会長・貝塚勇(定13回)・大竹伸一(高17回)・飯塚哲哉(高18回)・長戸琴(高18回)・高山了(高18回)・竹井茂雄(高19回)・渡邊慎二(高20回)・小原芳道(高21回)・松井泰寿(高21回)・鈴木義人(高21回)・武井秀二(高23回)・豊崎利明(高25回)・田谷光一(高27回)・杉田幸雄(高29回)・中澤齊(高33回)・塚本一也(高35回)・日向久(副校長高36回)・浅野周二(全日制教頭高38回)・田中豪一(定時制教頭高44回)・浅野洋平(附属中教頭)

監事・草刈宏明(定10回)・鴻巣茂(高21回)・杉山博(高24回)

令和7年度 進修同窓会定期総会のご案内  
令和6年4月27日に開かれた定期総会におきまして、進修同窓会定期総会及び周年記念祝賀式を次のとおり開催することに決定しました。

- 一、期日 令和7年4月26日(土) 午後1時から
- 二、場所 土浦第一高等学校体育館
- ※卒業周年祝賀式該当学年
- 卒業60周年 高17回(昭和40年3月卒)、定15回(昭和41年3月卒)
- 卒業50周年 高27回(昭和50年3月卒)、定25回(昭和51年3月卒)
- 卒業40周年 高37回(昭和60年3月卒)、定35回(昭和61年3月卒)
- 卒業25周年 高52回(平成12年3月卒)、定50回(平成13年3月卒)
- 卒業15周年 高62回(平成22年3月卒)、定60回(平成23年3月卒)

一般会員・周年記念該当会員の数多くの方が母校の門をくぐられることを期待しております。

本部幹事・飯村弘(高5回)・桜井光孝(定4回)・石川信廣(高13回)・武石進(定15回)・田上顯(高18回)・渡邊俊樹(高20回)・原田晋市(高20回)・助川博夫(高21回)・黒岩英行(高23回)・斉藤昇(高27回)・小城豊(高28回)・阿部哲次(高28回)・野口稔(高29回)・大久保彰(高29回)・鈴木淳一(高30回)・伊勢一則(高31回)・高野培美(高31回)・酒井学雄(高33回)・江田麻祐子(高34回)・大久保博(高37回)・尾形泰久(高39回)・大塚健司(高40回)・吉岡隆久(高41回)・伊東明彦(高45回)・青山大人(高49回)・櫻井忠男(定53回)・荻原麻理(高52回)・鈴木絵莉(高57回)・金子敏明(高59回)

校内幹事・諸岡重彰(副参事兼事務室長)・本田由佳(高43回)

評議員 (敬称略)

9月30日現在

- 小原芳道(土浦支部・高21回)
- 宮本幸男(高津天川支部・高15回)
- 廣瀬昭雄(小松支部・高10回)
- 高山了(真鍋支部・高18回)
- 田上顯(新治支部・高18回)
- 武田信則(美浦支部・高8回)
- 山越守(牛久支部・高21回)
- 山村邦男(龍ヶ崎支部・高12回)
- 杉山博(取手支部・高24回)
- 飯泉春長(真壁支部・高11回)
- 岡崎尚俊(八郷支部・高18回)
- 鶴町文男(小美玉支部・高19回)
- 大竹伸二(水戸支部・高17回)
- 齊藤泰雄(東葛支部・高21回)
- 飯塚哲哉(東京支部・高18回)
- 塚田昇(宮城県支部・高6回)
- 田谷光二(くば支部・高27回)
- 成瀬真勝(県庁支部・高37回)
- 軽部良(常陽亀城会・高39回)
- 尾崎聡(くば銀行桜水会・高32回)
- 矢口孝則(上海支部・高29回)
- 梅澤正之進(中40回)
- 高橋秀(中43回)
- 横田照治(中43回)
- 久保木康輔(中46回)
- 井坂雄(中47回)
- 真中義雄(中49回)
- 尾形省三(高5回)
- 田村敏明(高6回)
- 住尾勉(高7回)
- 本川軍治(高8回)
- 古森貞弘(高9回)
- 鈴木博二(高10回)
- 長瀬宗男(高11回)
- 瀧ヶ崎洋之(高12回)
- 堀越昭(高13回)
- 南隆男(高14回)
- 野村ルナ(高15回)
- 島田卓光(高15回)
- 石田栄一(高16回)
- 五頭英明(高16回)
- 坂本栄(高17回)
- 石神毅(定14回)
- 鈴木志郎(高18回)

- 中村志郎(高19回)
- 長峰二男(高20回)
- 柴沼和広(高21回)
- 萩沼秀二(高22回)
- 藤澤宏(高23回)
- 海老原一郎(高24回)
- 前島寛誠(高25回)
- 富田格(高26回)
- 桜井浩(高27回)
- 小城豊(高28回)
- 島岡宏明(高29回)
- 野澤博(高30回)
- 茂木久和(高31回)
- 下條卓造(高32回)
- 原光広(高32回)
- 片岡達郎(高33回)
- 加治行雄(高34回)
- 塚本也(高35回)
- 大曾根靖夫(高36回)
- 齊藤康彦(高37回)
- 村上太郎(高38回)
- 日比野有(高39回)
- 大川政則(高40回)
- 矢口和弘(高41回)
- 木島則幸(高42回)
- 目次康男(高43回)
- 小倉洋平(高44回)
- 吉田謙(高45回)
- 中井川大助(高46回)
- 中山雅博(高47回)
- 小野重満(高48回)
- 松井泰道(高49回)
- 青山大人(高49回)
- 小池利明(高50回)
- 鈴木信行(定47回)
- 木村友和(高51回)
- 飛澤美穂(高51回)
- 戸谷義治(高52回)
- 島田秀瑛(高53回)
- 兵頭翔洋(高54回)
- 坪松章人(高55回)
- 島田達也(高55回)
- 工藤圭太(定52回)
- 辻尚宏(高56回)
- 菱沼智之(高56回)
- 内田健人(定53回)
- 櫻井忠男(定53回)
- 沖田賢亮(高57回)
- 佐々木真樹(定54回)
- 八木太二(高58回)
- 酒井義正(定55回)
- 内山昌博(高59回)
- 酒井彩芳(定56回)
- 長谷龍骨(高60回)
- 鬼澤寛樹(高61回)
- 山下一宏(定57回)
- 兒玉拓也(定58回)

- 倉内裕史(高62回)
- 鈴木真介(定59回)
- 島田重(高63回)
- 一色竜杜(高64回)
- 寺門広人(定61回)
- 原部直輝(高65回)
- 高花翔太(定62回)
- 藤井章太(高66回)
- 佐藤翼(定63回)
- 大藤由紘(高67回)
- 鳴海聖(定64回)
- 関俊希(高68回)
- 佐藤香雪(定65回)
- 山口航平(高69回)
- 入田杏壺(定66回)
- 森裕介(高70回)
- 山口陸冬(定67回)
- 小林萌愛(高71回)
- 遠藤美咲(定68回)
- 宮田明音(高72回)
- 塚本光晟(定69回)
- 大島弘也(高73回)
- 根崎伊吹(定70回)
- 鶴町開(高74回)
- 久松綾香(定71回)
- 藤原桃子(高75回)
- 小林大樹(定72回)
- 山中慧治(高76回)
- 佐藤寛太(定73回)

卒業60周年記念同窓会

中川 清 (高16回)

令和6年度進修同窓会及び卒業周年記念祝賀式に、卒業60周年記念としてお招きを頂き、祝辞と記念品とを賜りました。式典開催にご尽力頂きました皆様から感謝を申し上げます。終了後、第16回卒業生は、ホテルマロウド筑波で同窓会を開催しました。

同級生は350人おりました。今回の出席者は64人でした。

教えを頂いた先生や何人かの友人が、すでに鬼籍に入られて、その姿を見ることができな

いには、一抹の寂しさを感じました。ただ、先生の中で、「青山先生」にご出席頂き、お元気な姿で登場された時は、懐かしさでいっぱいになりました。お互い、いつの間にか年を取ったわけですが、ひとたび顔を合わせると、一瞬で若返って、みんなと一緒に母校で学び、学校生活を送った青春の日に戻ったような心地になりました。

顧みますと、私たちは昭和20年第二次世界大戦敗戦前後の年に生まれ、日本人にとって、衣食住いずれも、最も困窮した時代でした。

その後、日本は高度成長期を迎え、私たちが卒業した年の秋に日本の成長を世界に轟かせるため、東京オリンピックが開催されました。

卒業60周年の節目に当たる今年には、パリオリンピック・パラリンピックが開催され、日本人の活躍が明るい話題となりました。

私たちの年代はオリンピックにご縁があるようです。しかし、バブル崩壊で、国内のこうした好景気が一気にひっくり返った状況は、記憶に新しいところです。

私たちも卒業60年間にいろいろな経験をしましたが、わが母校にも、令和3年4月1日から附属中学が開校し、現在、イン



土浦第一高等学校第16回卒業生 卒業60周年記念第8回同窓会 令和6年4月27日 於 ホテルマロウド筑波

ド出身のプラニク・ヨゲンドラ校長先生が着任されるなど、大きく教育環境も変化しています。

このような厳しい社会環境に対応するためには、「教育」が大変重要であって、土浦一高の役割は今後益々大きく期待されるでしょう。益々のご発展をご祈念申し上げます。

母校は、卒業生にとって、いつまでもかけがえのない懐かしいものであります。

この学び舎にともに育った者同士は、全国各地、さらに世界の各国にあっても、いつまでも手をつないで、助け合っていきたいと願うのは、ひとり私ばかりではないと思います。

今回の60周年で記念祝賀式は終了となりますが、出席された

皆様からは、米寿を迎えた時にもう一回、同窓会を開催してほしい、というご意見がありました。

この貴重な結びつきをさらに深めたいと思います。

今後、検討させていただきます。皆さん、それまでお元気で。

### 卒業50周年記念同窓会

川崎 隆義(高26回)

2年後に古希を迎える昨年の初秋、進修同窓会から、卒業50周年記念祝賀式の説明会のご案内を頂きました。前回40周年の時は出席したものの、幹事の役はほとんどしないままでしたので、今回はやらなくてはと思い、出席いたしました。同じ幹事の富田君は前回も幹事でしたので、お話を聞き、まずはクラスの世話役を決めることになりました。先輩の荻沼さんにお借りした同窓会名簿を頼りに、3年の間に同じクラスになった方を頼りに、電話連絡をしました。が、定年を過ぎ70歳を目の前にしているのに、皆さんお元気でお仕事を、そして地域の区長さんや、サークルの重責についている方が多く、なかなか引き受けてくれる方は見つかりませんでした。が、快く引き受けてくれる方もいらして、何とかクラス幹事を見つけ、11月に初めての打ち合わせ会を開きました。その中で、連絡は往復は

がきではなく、返信はメールで頂くことにしました。これで、次回からはコストを掛けずに案内ができるかと好評でした。1月の2回目には、人数を確認し、進捗状況を報告しました。参加人数が分かったので、マロウドに会場の予約を入れ、ネームシールを手配し、シールは剥がれてしまうので、プレートにしたほうが良いと後から思いま

した。懇親会場用の横断幕は通販で安く購入できました。半年間の準備期間もあっという間に過ぎ、いよいよ当日になりました。総会出席者93名、懇親会には、友部先生、斎藤先生を迎え、85名で開催できました。10年前にお会いしているの、そう多くは変わっていませんでし



たが、年齢からか、病気で風貌が変わってしまった方が何名かいました。皆さん元気で、また10年後の再会を楽しみにしているとともに、毎年クラス会をやるのかという話もありました。先日、日本人の平均寿命が発表されました。男性が81歳、女性が87歳だそうです。しかし、今回60周年の先輩を拜見して、お元気で、我々も平均寿命を超える歳に近いけれど元気でいられそうな感じがいたしました。また、卒業50周年を振り返ると、優秀な先輩、後輩、そして同級生に恵まれ、いろいろな面で土浦一高卒の恩恵を受けました。先日、懇親会で徴収した会費の一部を土浦一高進修同窓会に寄付させていただきました。土浦一高並びに進修同窓会の益々のご発展をご祈念申し上げます。

### 卒業40周年記念同窓会

大曾根 靖夫(高36回)

コロナ禍を経て、昨年4年ぶりに開催された進修同窓会総会及び卒業周年記念祝賀式は、今年4月27日に盛大に催され、私も高校普通科36回、理数科13回の卒業生も、卒業40周年記念としてお招きを頂き、祝辞と記念品とを頂戴いたしました。新型コロナウイルス感染症の指定が5類相当に変更されて約1年、気が付けば街

中でマスクをする人も少なくなってきた様子でした。まだまだ心配な状況も続く中、同窓会総会開催後は、7名の恩師にご来臨を賜り、130名以上の同級生が集まって、ローブにて学年同窓会を無事、盛大に開催できましたことを、学年幹事一同、大変うれしく思っております。

私どもは、周年祝賀年度の間を埋める形で、おおよそ5年ごとに学年同窓会を開催してきました。今回は、母校創立120周年を記念した、日本館改修のための募金活動を兼ねる形で、卒業35周年を2年前倒しで催したため、今回は実に7年ぶりの開催となりました。

還暦も間近となりますと、ライフステージが大きく変わった人も多く、高校卒業40年は、まさに人生の節目の時期になります。そのためか、前回以上に多くの参加者が集い、旧交を温め、時を忘れて来し方・行く末を語り、素晴らしいひとときを過ごすことができました。

なお、進修同窓会名簿の「住所不明者」欄に名前がある同級生も増えておりますが、友人との間では連絡が取れている方が多いことや、事務方の負担を軽減するため、遅ればせながら、当学年も、卒業時のクラスごとに、希望者によるグループLINEを作って、勤務先や住所が変わっても連絡が取れるよ

うにすることにいたしました。今回は卒業50周年になります。が、学年同窓会は5年後にも企画し、再会の場を設けていく所存です。



末筆になりますが、このような場を設けていただいた進修同窓会本部役員、関係者の皆様へ深く感謝申し上げます。また、母校土浦第一高等学校の益々のご発展と進修同窓会会員の皆様のご健勝とお祈り申し上げます。卒業40周年記念同窓会の報告といたします。

### 卒業25周年記念同窓会

木村 友和(高51回)

令和6年4月27日に土浦第一高等学校進修同窓会総会及び卒業25周年記念祝賀式が開催され

ました。祝賀式には40名程度が、ホテルマロウド筑波で開催した懇親会には74名の同級生が参加しました。懇親会には7名の恩師の先生方にもご来臨頂くことができました。当時は担任だった恩師の先生方は、今や校長先生として活躍であったり、すでに退職されていたり、と25年の月日を感じるとともに、お会いした瞬間に当時の感覚がよみがえりました。今回は、挨拶以外の全てを歓談の時間としたためか、会費が余ったので1時間の延長をしたためか、ゆっくりと旧交を温めることができました。

我々の学年の同窓会は、2007年、2014年に続き3回目になりました。相変わらず同級生と連絡を取り続ける難しさを感じました。今回もハガキやメール、SNSを駆使して、何とか130名程度と連絡が取れましたが、海外など遠方に在住している、子育て中で時間が取れない、などなど、残念ながら参加できないとの声が多くありました。そこで、同級生の有志から、協力を得て、YouTube Liveで会場の様子を配信しました。当日の様子を1か月程度見られるようにしておいたところ、閲覧数は130回を超え、少々老けた懐かしい顔と会場の熱気が多くの人に届いたことは嬉しく思います。



インターネット社会の発展と実際に対面する喜びとを感じた、コロナ禍を経た時代を反映した会となりました。この場をお借りして、祝賀式及び同窓会の開催においてご協力いただきました関係各位に感謝申し上げます。プラニク・ヨゲンドラ校長のご活躍にも代表されるように、今、ダイバーシティ・インクルージョン・エクイティは、もう当たり前になりました。さらに、働き方改革、ハラスメント対応など、社会体制の変化も相まって、我々の世代は、仕事で

も家庭でも、責任ある状況に置かれており、日々多忙を極めていきます。これからは、大病を患ったり、子育てや介護の問題が起きたり、と先人たちが経験してきた様々な苦難が同じように待ち受けていると思いますが、また15年後の同窓会の会場で、皆が元気な姿で再会できることを楽しみに、日々大切に歩んでいきたいと思えます。

最後になりますが、土浦第一高等学校・附属中学校及び進修同窓会の益々のご発展並びに関係各位のご健勝を心よりお祈り申し上げます。

**卒業15周年記念同窓会**  
嶋田 裕史(高61回)

2024年4月27日に開催された卒業15周年の同窓会には約130名が集まり、再会を喜ぶとともに様々な思い出が鮮やかに蘇りました。いつまでも校舎に残り準備に明け暮れた一高祭、熱く盛り上がった野球応援、そして何よりも、教室での級友との会話や先生方からの叱咤激励の数々が、若く柔らかな心に刻まれた良い思い出です。

特に印象深く私の心に刻まれているのは、「TAG」という合言葉です。T:楽しく、A:明るく、G:元気よく、の頭文字を採ったもので、入学後の学年集会で、学年主任の菊池先生より高校生活の心得としてお話



頂きました。若く元気に溢れた年頃でしたので、当時はいい思い出と来なかつたものですが、卒業後15年が経ち、この言葉の深みが身に染みてまいりました。

当時の私たちは、ただそこで息をするだけで元気でした。校舎で友人と集まれば、自然と楽しく、明るい時間を過ごせました。今、私たちが「TAG」でいるには、心健やかでなければなりません。世の中の役に立たなければなりません。そして、自らを律しなければなりません。何気ない合言葉として授けて頂いた言葉ですが、私たちの

人生の根幹を支えるテーマなのだ、今になりようやく理解できました。

そんな中で、校友との再会は、大いに刺激になり、私たちが原点を思い起こされました。同窓会からしばらく経った今思い返してみると、高校時代を共に過ごし、それぞれに成長している仲間が数多くいるということに勇気づけられます。

本来ならば、この報告は代表幹事の井原謙太郎君が執筆する予定でした。あまりに突然のことでしたが、井原君は2024年5月12日に永眠されました。ここに、改めてご冥福をお祈り致します。最後まで参加者を気遣い、屈託のない笑顔で同窓会を盛り上げる井原君の表情を鮮明に覚えているだけに、未だに信じられません。

井原君とは「10年後に同窓会で再開しよう」と約束し、手を振って別れました。忙しい中、率先して同窓会の準備を行ってくれた井原君は、「みんなが楽しく会える会にしたい」と口癖のように言っていました。私たちの合言葉は「TAG」です。楽しく、明るく、元気よく集まること、それが私たちと井原君との約束なのだと思います。

最後になりますが、土浦第一高等学校・附属中学校及び進修同窓会のご発展を心からお祈り申し上げます。

### 年会費納入のお願い

「年会費（1口3,000円以上）」の納入状況についてご説明するとともに、年会費納入への協力をお願い申し上げます。

下段のグラフ「年会費納入状況」で平成8年度以降の状況を見ると、右肩下がりの傾向は歴然です。最高は平成13年度の3,565名/1,158万円。最低は平成28年度の1,916名/644万円。平成26年度以降は、多少の凸凹はありますが、低水準が続いています。直近の令和5年度の納入実績は2,034名/670万円、最高であった平成13年度からは、4割以上も減少しています。また、納入会員数の割合は、存命会員約2万7千名のうち、僅かに1割未満という状況です。

この厳しい現状に加え、別の懸念材料もあります。令和3年度の併設中学開設による影響です。中学1学年の定員は80名です。校舎などの設備の制約上、高校の定員320名が240名に削減され、卒業数は令和6年度以降、これまでと比べて80名も減少していきます（令和5年度のみ40名減）。その結果、（入金金5,000円+前納金5,000円）×80名＝80万円が、確実に減収となります。長期に亘る会員数減は大きな気掛かりでしかありません。

さらに、令和4年度版の会員名簿上の住所不明者数は、6,544名（平成29年版比917名増）と大変多く、年々増加していますので、同窓会規約の「会員相互の親睦」・「母校の発展に協力」の観点からも、会員間の情報共有の希薄化が懸念されます。これも、年会費納入の減少要因の1つと思われるます。

以上の状況から、「年会費」収入の減少傾向への歯止めのためには、明らかです。近年、この状況に鑑みて寄せられた篤志寄付も貴重な財源ですが、同窓会収入の8割以上を占めてきた「年会費」収入は、活発な同窓会活動推進のための重要な財源です。「年会費（1口3,000円以上）」の納入増加の必要性をご理解頂き、より多くの会員の皆様に協力を願います。

年会費減少問題が提起された3年前、個人的に親しい同期達に年会費納入への協力をお願いしました。結果、些少ですが納入人数が増えています。また、同期幹事会も、卒業50周年を機に年会費納入増のための協力を検討してくれています。結果は未知数ですが、大変心強く感じています。

次ページ資料「令和5年度年会費納入状況」の皆様の学年の欄をご確認頂き、身近なところから、広く同窓会全体に、年会費

納入の気運を高めていただきたい、と思います。

#### 【年会費納入先】

振込先銀行・ゆうちょ銀行  
口座記号番号・00340の815254

加入者名・茨城県立土浦第一高等学校進修同窓会

又は本誌同封の郵便局・コンビニ兼用払込依頼書をご利用下さい。

#### 【進修同窓会規則（抜粋）】

第12条 本会の経費は第10条の入会金、年会費、終身会費及び篤志寄付金を以て充てる。

1、年会費は、6年目以降は、3千円以上とする。

2、終身会費は、3万円以上とする。

#### ○篤志会員

令和5年度終身会費納入者

山内 忠夫様（高8回） 100万円

匿名（高18回） 50万3千円

#### ○寄付金納入者

高14回石岡市地区有志 29,703円

土浦三中支部 8万円

高14回卒 9万円

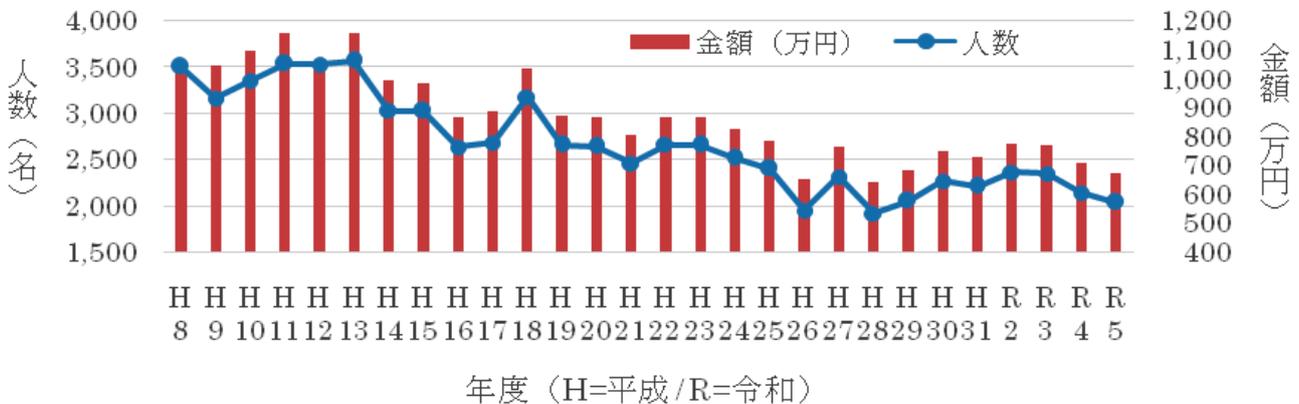
高26回卒 9万円

高36回卒 10万円

令和6年度（9月30日現在）

財務委員会 斉藤 昇（高27回）

### 年会費納入状況



令和5年度会費納入状況

納入総額 **2,044 名 8,443,000 円**  
 (年会費 2,034名 終身会費 10名)

(1)年会費

卒業回	人数	金額	備考	卒業回	人数	金額	備考	卒業回	人数	金額	備考
中1~35	0	0		16	42	126,000		48	13	39,000	
36	0	0		17	41	123,000		49	13	39,000	
37	0	0		18	48	144,000		50	20	60,000	
38	0	0		19	58	174,000		51	9	27,000	
39	0	0		20	44	132,000		52	13	39,000	
40	2	6,000		21	44	132,000		53	15	45,000	
41	0	0		22	31	93,000		54	5	15,000	
42	2	6,000		23	49	147,000		55	13	39,000	
43	1	3,000		24	29	87,000		56	13	39,000	
44	2	6,000		25	48	144,000		57	8	24,000	
45	1	3,000		26	45	135,000		58	2	6,000	
46	1	3,000		27	58	174,000		59	7	21,000	
47	3	9,000		28	38	114,000		60	10	30,000	
48	6	18,000		29	42	126,000		61	5	15,000	
49	1	3,000		30	28	84,000		62	7	21,000	
併中1	0	0		31	29	87,000		63	5	15,000	
併中2	0	0		32	28	84,000		64	11	33,000	
高1	2	6,000		33	30	90,000		65	10	30,000	
2	7	21,000		34	19	57,000		66	5	15,000	
3	14	42,000		35	38	114,000		67	4	12,000	
4	15	45,000		36	36	108,000		68	10	30,000	
5	15	45,000		37	23	69,000		69	13	39,000	
6	26	78,000		38	27	81,000		70	7	21,000	
7	26	78,000		39	21	63,000		71	0	0	
8	40	120,000		40	22	66,000		72	0	0	
9	45	135,000		41	17	51,000		73	0	0	
10	34	102,000		42	17	51,000		74	0	0	
11	34	102,000		43	11	33,000		75	0	0	
12	40	120,000		44	22	66,000		76	274	1,370,000	
13	40	120,000		45	16	48,000					
14	46	138,000		46	15	45,000					
15	44	132,000		47	18	54,000		小計	1,973	6,467,000	

卒業回	人数	金額	備考	卒業回	人数	金額	備考	卒業回	人数	金額	備考
定1	0	0		33	0	0		65	0	0	
2	1	3,000		34	0	0		66	0	0	
3	0	0		35	0	0		67	0	0	
4	4	12,000		36	0	0		68	0	0	
5	0	0		37	0	0		69	0	0	
6	2	6,000		38	0	0		70	0	0	
7	1	3,000		39	0	0		71	0	0	
8	0	0		40	0	0		72	0	0	
9	3	9,000		41	0	0		73	25	125,000	
10	1	3,000		42	0	0					
11	0	0		43	0	0					
12	1	3,000		44	0	0					
13	2	6,000		45	0	0		定時制部会		0	
14	3	9,000		46	0	0		通信制	1	3,000	
15	2	6,000		47	0	0		小計	61	233,000	
16	1	3,000		48	0	0		合計	2,034	6,700,000	
17	0	0		49	0	0					
18	2	6,000		50	0	0					
19	1	3,000		51	0	0					
20	0	0		52	0	0					
21	1	3,000		53	0	0					
22	1	3,000		54	0	0					
23	0	0		55	0	0					
24	3	9,000		56	0	0					
25	1	3,000		57	1	3,000					
26	0	0		58	0	0					
27	1	3,000		59	0	0					
28	0	0		60	0	0					
29	0	0		61	3	9,000					
30	0	0		62	0	0					
31	0	0		63	0	0					
32	0	0		64	0	0					

(2)終身会費

卒業回	人数	金額	備考
高8回	1	1,000,000	
高18回	1	503,000	
高26回	1	30,000	
高27回	1	30,000	
高29回	1	30,000	
高34回	1	30,000	
高59回	1	30,000	
高62回	1	30,000	
高65回	1	30,000	
高68回	1	30,000	
合計	10	1,743,000	

# 支部・OB会だより

## 東葛支部

支部長 齋藤 泰雄 (高21回)

東葛支部の支部名になって「東葛地域」は、行政上は旧東葛飾郡の一部(東葛6市)を指しますが、我々はおととゆるやかに解釈して、千葉県の常磐線、東武野田線(最近は「アーバンパークライン」と呼称しています)及びつくばエクスプレスの沿線に住んでいる、もしくは仕事場がある人を主な対象にするというレベルで支部を運営しています。

ただし、これも厳密に千葉県内に限定するものではなく、実際に茨城県や埼玉県、東京都から参加してくれている会員もいます。

当支部の総会につきましては、新型コロナウイルスの影響から2020年度は書面による開催とし、21年度と22年度とは支部活動自体を休止していましたが、新型コロナウイルスが5類感染症に移行した昨年10月28日に、4年ぶりにリアルでの開催をすることができました。

母校からは校長のプラニク・ヨゲンドラ先生が、また進修同窓会からは当時の大野会長と助川事務局長にご臨席いただいた他、ゲストとして東進会の飯塚会長と長戸副会長にご参加いただきました。

ただ、総会の案内状をお送りしたところ、配達不能で戻ってきた方や、高齢になったために参加が難しくなったといったご返事も相当数いただきました。4年という年月は本当に重いと実感し、同時に時間が貴重なものだという認識を新たにしました。

当支部に登録している会員は約300名で、総会の参加者は、従来30〜40名程度でしたが、昨



年度の参加者は20名にまで減っていました。

それでも開催前から「総会を楽しみにしている」という会員の声もお聞きしていましたし、この年、初めて参加された会員もいらっしやいました。

大野前会長からは以前、当支部について「ごんまりした支部だ」という評価をいただいたことがありますが、風通しがよくフレキシブルに対応できるのが当支部の取柄でもあります。

昨年度の総会は、これまでとは違って会場は、いわゆる「町中華」で、かつ立食は避けて着席スタイルという形式で実施しました。

参加者は従来より少なかったものの、これを支部活動の新しいスタートという位置づけにしたいと思っています。

なお、当支部もご多分に漏れず会員及び幹事会のメンバーが高齢化してきています。支部に参加してみたいという方が、運営にご協力いただける方が、いらっしやれば是非ご連絡ください。

## 小美玉支部

支部長 鶴町 文男 (高19回)

令和5年6月17日に総会をいつもの会場である橋本旅館にて開催しました。幡谷浩史進修同窓会元会長、豊崎利明副会長、そして校長のプラニク・ヨゲンドラ先生にご出席を頂き、皆様からご挨拶を頂きました。

議事に入り、出頭整支部長(高17回)が議長を務め、藤井雄一幹事(高25回)から平成30年11月10日の第4回総会、令和4年6月11日の役員会、令和5年3月25日の役員会に係る報告がなされました。

その後、会計報告が小沼敏久さん(高24回)よりなされ、監査の結果、適正であることを認めるとの監査報告が、長島敬志幹事長(高19回)よりなされま

した。

続いて役員改選があり、新役員として支部長に鶴町文男(高19回)、副支部長に長島敬志(高19回)、監事に原田英雄(高20回)、内田欣作(高26回)、顧問に出頭整氏(高17回)が選出されました。

私達が住む小美玉市は小川町、美野里町・玉里村の三町村が合併して出来た市です。

自分は、その中の玉里村で生まれ育ちました。人口は当時5千人位でした。小さな村で育ったという感じを今も持ち続けています。土浦に通っていた頃は、毎日の電車通学を含め、街中を歩くことにも刺激を受けていました。今は、商店街も変化が大きくかなり寂しい感じになっていますが、朝夕の登下校は楽しい時間帯となりました。

玉里中学校からは6人の同級生が土浦一高に進学しました。



第5回土浦一高進修同窓会小美玉支部総会 於橋本旅館 令和5年6月17日

全員が元気に過ごしており、現在、橋本愛子さんが東京に、滝平潤、田口徳行、狩谷幹雄、野口充男の各氏と私、鶴町文男の5名が玉里に住んでいます。食堂やスーバーなどでたまに出会うこともあり、話しこんだりしています。

また、私個人の近況ですが、年に2回程、3年時に同じクラスだった栗原権衛門(日本電子会長)宅で、ミニクラス会と称して10人程が集まってバーベキュー等をして楽しんでます。

現在の自分は、毎朝体操をしたり、庭で育てている山羊の餌となる草刈りをするを日課とし、趣味で続けている短歌・俳句・書道に頭を使っています。また、ゴルフに誘われることもあり、喜んで参加して楽しんでいます。

## 令和6年度支部会

- 真鍋支部 於 ホテルマロウド筑波 5月12日12時
- 東進会支部 於 学士会館 6月9日13時
- 県庁・水戸支部 於 水戸三の丸ホテル 6月18日18時30分
- 牛久支部 於 牛久シティホテル 6月29日17時
- 筑波銀行支部 於 霞月楼 7月27日18時
- つくば支部 於 ホテル日航つくば 8月3日15時
- 東葛支部 於 中華酒房「龍晶餃子」 10月19日14時
- 八郷支部 於 廻中津川 10月20日12時
- 取手支部 於 亀寿司 11月16日17時
- 土浦支部 於 ホテルマロウド筑波 11月17日15時

## 恩師からの便り

### 友部 發夫 先生

(昭和38年〜平成4年在職)



昭和38年3月に大学を卒業後、新採で土浦一高に配属され、数学科教員として、13年間勤務させていただきました。その間のことを回想してみたいと思います。

まず最初は、土浦一高勤務と決定した時のことです。喜びと不安が入り交じった気分でした。でも、自分は水戸一高出身なので、レベルは同じだろう、と考えて気持ちを落ち着かせました。当時の校長は山本英先生、教頭は菅澤虎彦先生で、数学科は、稲見敏雄・高木昭二・矢萩力也・天貝茂樹・平田増三・鶴巻勝夫・青山和義・朝賀定良の各先生と私の9名でした。

各先生からのご指導を頂きながら、土浦一高の教員としての道を歩き始めました。そして5月頃、数学科の教員全員による、相互の授業参観が行われました。各人の授業を、他の8人の先生が参観しました。新任の私には、すくなく勉強になり、自分

の授業スタイルの確立に役立ちました。また、土浦一高在職13年の間、初年度を除いて毎年度学級担任を任せられ、全部で5巡担当しました。高18回、高21回、高23回、高26回、高29回です。

#### 「高18回生の想い出」

教員になって最初の教え子です。初年度は副担任という役を与えていただき、学級経営や進路指導、生徒指導等を、先生方から教えていただきました。

次年度は、担任の役を与えていただきました。初めての担任クラス「2年C組」です。(55名内女子5名)当時は、学力別学級編成をしていました。成績上位者のクラスを2つ作り、他の6クラスは成績を均等にしていた。普通組と言っていました。2年C組はその組でしたが、熱心な生徒が多く、成績も皆良好で、生活面でも手のかかる生徒はいませんでした。

クラスの男子生徒から、バドミントン同好会を設立したいので、顧問になってほしい、と頼まれて応じたところ、何と全国大会に出場することになって驚きました。現在のインターハイです。監督として、8月に5人の生徒を引率して京都に遠征しました。1回戦で敗退でした

が、貴重な体験でした。

次の年度は「3年H組」の担任でした。(56名内女子4名)3年次では、進路別学級編成をしていて、H組は国立理系のクラスでした。学習意欲旺盛で、大学入試でも、東北大、千葉大、早稲田大、私大医学部等、多くの大学に合格しました。また、数学を教えていて、驚いたことがありました。それは、内容が自分の高校時代と比べて、かなり高度になっていたことです。自分が大学で学んだことを高校生に教えていることに驚きました。集合論、ベクトルと行列、対数関数の微積分など、高度な内容なのに、生徒達が容易に理解していたのです。時代の大きな変遷を感じました。

#### 「高21回生の想い出」

この時も、各年次で学力別学級編成をしていました。私は、各年次とも、学力最上位のクラスの担任を任せられました。そのクラスの授業のレベルは高く、私の担当した数学を例にすると、次のようでした。2年生で履修すべき内容は、2年次の12月までに終了させて、1月から3年生が学ぶ数学Ⅲを先取り履修させ、3年次の9月までにそれを終了させて、その後は大学入試問題の演習に当てました。

このようにして大学入試に備えたのですが、入試を目前にしました。東大紛争の煽りで、前代未聞の重大事件でした。東大志願者が他大学に流れ、難易度が上がり、合否に大きく影響しまし

た。志願先変更の相談で生徒共々四苦八苦したことを思い出します。クラスに、東大志願者が3人いましたが、2人は浪人して、次年度に合格しました。他の1人は浪人しないで京都大学に進学し、卒業後にみごと東大大学院に合格しました。初志貫徹です。

このように書くのと、勉強ばかりのクラスに思われそうですが、実際はそうではなく、「一高祭」や「体育祭」にも積極的に参加して、和気藹々とした雰囲気だった。

#### 「高23回生の想い出」

2年次と3年次の学級担任を務めました。この時から、学力別学級編成はなくなり、3年次で文系・理系のコース別の学級編成になり、私は理系のクラスを担当しました。このクラスの想い出として印象深く残っているのはHR活動です。それまでのクラスのHRとは全く違っていました。生徒の「HR運営委員会」が作成した資料を用いて、真剣な討論をしました。

「教科書検定」「学習指導要領」「憲法」等々でした。大学の学園紛争の影響もあってか、硬派のテーマが多かったです。学習活動も活発で、東大や慶応大に合格した生徒もいました。

#### 「高26回生の想い出」

この学年で3年間担任を務めました。特に印象深く記憶に残っているのは「3年D組」で、理系のクラスです。4月に進路希望調査をしたところ、医学部志望が10名もいてびっくり

しました。一クラスからそんなの無理と思いましたが、彼等の努力はすばらしく、全員がみごとに医学部に合格しました。後年、大学教授になった人物も複数います。

#### 「高29回生の想い出」

この学年では、2年次まで担任を務めました。丁度その頃から必修クラブが始まり、私は「数学クラブ」を開設しました。授業では扱えない題材を提示して、生徒と共に数学を楽しんだことを、懐かしく思い出します。2年次の担任終了後に、母校である水戸一高に転動しました。卒業まで担当しなかったのも申し訳ない気持ちでした。でも卒業後の同窓会に招いて下さり、感謝しています。

#### 「土浦一高勤務後の動向」

土浦一高在職中に、高校教員としての職務をご教示いただきましたので、その後大過なく務めることができました。ありがとうございます。ありがとうございました。水戸一高に9年、並木高校に13年、石下高校に1年、再び並木高校に2年(校長として)という教員歴を経て、平成13年3月に定年退職し、その後3年間、土浦日大高校に勤務し、その後は、教職から離れて、町内会の仕事を数年間担当しました。定年退職後に、趣味として始めた太極拳を今も続けています。週に1・2回仲間と共に稽古をしています。師範の資格もとりました。太極拳歴21年になります。健康維持の為に、もう少し続けようと思います。

## 卒業生レポート

## 渋滞学からの社会貢献

東京大学大学院工学系研究科教授

西成 活裕 (高37回)



## 1. 渋滞研究への道

土浦一高への胸高鳴る入学からは40年。時の流れは信じられないほど早いと実感するこの頃だが、経験してきた事は全て脳のどこかに刻まれているようだ。確かに今でも土浦一高の校舎を見ると、当時の事を鮮明に思い出す事がある。サッカー部で暗くなるまでボールを追っていたこと、「一高祭」でシブガキ隊に扮して踊ったことなど、懐かしい思い出が蘇ってくる。

当時はもちろん今の自分を全く想像できていなかったが、将来は何かの研究をして生きていこう、と考えていた事は確かだ。とにかく好奇心だけは旺盛で、文系理系などあまり関係なく、何でも興味を持ったものは、本を見つけて調べていたのを覚えている。ネット検索など無い時代なので、図書館や本屋さんで定期的に調べて様々

な知識を得ていた。宇宙に果てはあるのか、なぜ人は喧嘩をするのか、どうしたら早く走れるのか、など、いろいろと疑問に思った事を調べるのが半ば趣味になっていた。

そういうわけで大学受験の時は悩み、早々と専門を決めたくない事もあって、東京大学の理科一類を受けることにした。ここは教養課程が2年間あるため、入学時に専門を決めなくても良いのだ。残念ながら現役では見事に落ちたが、浪人はしたくなかったので私立の早稲田大学に入学し、大学生活を送りながら翌年も一度東大を受験した。早稲田での生活がかなり楽しかったので、明らかに現役の時より受験勉強はしていなかったが、翌年なぜか東大に合格してしまった。そこで早稲田を退学して東大に入学し、また新たな環境で様々な知識にどっぷりと浸かる日々が始まったのだ。

いろいろな勉強しているうちに、やはり小さいころからの疑問の一つである「宇宙」に関係した研究がしたい、という気持ちが強くなっていった。そこで宇宙物理について研究する事も考えたが、この分野はあまりにもデキる人が多いので、将来厳しい競争になるという不安も感じていた。そこでまた悩んでいるうちに、宇宙に「行く」のも面白いと思い始め、結局のところ、航空宇宙工学の道を選んだのだ。しかし、進学後にまた物理学への思いが強くなってきて、さらに宇宙を研究するとすると高度な数学も必要になる。そこで、かなり難しい数学や物理と

格闘しながら勉強しているうちに、ふと閃いたのが何故か「渋滞」の研究であった。まさかこの思いつきが人生を決めることになることは、当時は夢にも思わなかった。

なぜ渋滞なのか、とよく聞かれるが、実はその理由を論理的に説明するのは難しい。昔から混雑が大嫌いで何とかしたい、という思いもあったし、航空宇宙工学専攻で勉強していて、一番楽しかったのが流体力学であり、様々な流れに興味を持っていったという事もあったかもしれない。車や群衆も流れであり、そして渋滞する。体の中のタンパク質の流れが渋滞すると病気になるったり、お金が自分のところに渋滞してくれと嬉しい、など、いろいろな妄想を膨らませていったのだ。そして、ある時にこうした分野を超えた渋滞研究は、数理物理としても社会貢献としても最高に「楽しい」と感じるようになった。こうなったらもう突っ走るしかない。そこでこの新しい学問を「渋滞学」と勝手に名付け、今に至るまで30年以上も研究を続けている。論語に、「これを知る者はこれを好む者に如かず。これを好む者はこれを楽しむ者に如かず」という言葉がある。つまり、その知識があるからやっている人は、好きでやっている人になかなかないし、その人も、楽しんでやっている人にはかなわない。世の中楽しんでる人にはかなわない。

## 2. いざ社会貢献へ

誰もやった事がない分野を開拓

していくのは、楽しさもあるが、もちろん苦労も多い。渋滞学は様々な分野の融合で出来ている。数学や物理学はもちろん、航空宇宙工学、交通工学、建築工学、心理学、医学、生物学、経営工学、農学などとも関係している。初期の頃は数学の学会で発表した時に、「それは数学ではない」と言われて無視されたり、交通工学の学会で発表した時は「それは数学だね」と言われて興味を持ってもらえなかったりなど、5年以上にわたる苦労と下積み時期があった。何度か挫折しかけていたが、ただやはり渋滞や混雑は皆が何とかしたいと思っている事なので、実際に渋滞を無くせば絶対に認めてもらえる、という信念もあった。転機が訪れたのが、初めての著書で講談社科学出版賞に選ばれた時だ。新潮選書から「渋滞学」という本を著し、様々な渋滞分野横断的に扱う新しい学問に、多くの一般の人に興味を持って頂けたのだ。そこから火がついたように学会だけでなく、メディアからも多く声がかかるようになった。ゴールデンウィークやお盆などの渋滞の時期になると、決まってテレビで渋滞の解説を頼まれるようになり、さらに科学を一般の人に分かりやすく伝えるバラエティ番組などにもたくさん呼んで頂き、渋滞学の認知度が大きくなっていった。

おかげでオリンピックの東京招致が決まった時、私は観客の誘導についてのアドバイザーに選ばれ、オリンピック組織委員会と混雑緩和の仕事を担当することに

なった。コロナで2020年大会は延期になったが、翌2021年に開催するという事で、皆で感染症対策を考えながら必死に準備を進めていった。ところが、何と開会式の2週間前に「無観客」となることが決定したのだ。史上初のオリンピック無観客開催となり、我々の3年以上にわたる仕事も吹き飛んでしまったのだ。そしてかなり落ち込んでいたある日、アメリカから突然メールが届いた。そこには、混雑の研究で2021年のイグノーベル賞に選ばれた、と書いてあったのだ。「イグ」は邪魔だったが、世界的に有名な賞の受賞ということで、周囲はお祭り騒ぎになった。おかげで悲しみと喜びが同時に来た2021年は、これまでの人生で最も濃い1年となった。

いま最も関心を持っているものが「物流」である。もともと渋滞の研究の中で、モノの流れとその渋滞として物流も研究してきたが、近年その物流が危機的状況に陥っているのを存じだろうか。「2024年問題」という言葉を聞いた事があるかもしれないが、物流の9割以上を占めるトラックを運転する人が集まらず、このままではもうすぐモノが運べない時代が到来するのだ。物流はインフラであり、モノの渋滞は社会に大きなマイナスをもたらす。これまでの渋滞学の知見を生かして、何とか物流の非効率性を解消しよう、と今頑張っている。例えば皆さんも宅配便の再配送を無くすためには、個人がどう行動したら良いのか考えてみませんか。

# 母校だより

## 「高祭」の「黎明」

第77回「高祭」運営委員会顧問

矢口 恵理 (高62回)

大盛況で幕を閉じた第76回「高祭」から1年、様々な変革を取り入れた第77回「高祭」は、開催2日間で7千人以上の来場者を迎えるという大きな成功を収めました。この成功に関しては、生徒の活動に細やかに目を配る教員間の連携、限界を超える勢いで「高祭」開催に向けて注力する各委員会の委員長をはじめとした生徒達の努力、そして、学校行事に全力を尽くす生徒達を支えてくださった保護者の皆様や地域の方々の協力がなければ成し得なかったものです。改めまして、「高祭」に関わってくださった方々に心から感謝申し上げます。

さて、第77回「高祭」は、テーマである「黎明」を体現するものでした。前年の「高祭」はイレギュラーな要素がありつつも、コロナ禍以前の大規模な高祭を復活させ



ました。それに対し、今回の「高祭」は、変容する学校の状況を考慮し、開催時間の短縮、委員会の統合、来場者用駐車場の廃止、動線の変更といった「高祭」全体に関わる内容から、会計処理方法の変更、装飾の増設といった些末な部分にわたる、これまでの「高祭」の課題の解決を目指して新規の企画内容を盛り込みました。生徒は、来場者と在校生両方の満足度の高い「高祭」の実現に向けて尽力しました。今回考案した企画内容は、教職員及び生徒の負担を減らし、「高祭」自体の質の高さを保持した、持続可能な「高祭」の運営方法を提示し、新しい「高祭」の在り方の礎となったと自負しております。

今回、運営委員会顧問として、一高祭全体を掌握する立場になり、本校の卒業生として、これまでの「高祭」の伝統を大切にしたいという思いがありました。と同時に、新しいことに挑戦し、よりよいものを作り上げてほしいという思いも抱きました。生徒達とともに「高祭」の準備に打ち込んでいく中で、革新こそが「高祭」、ひいては土浦一高の伝統だと思いうようになりました。現状維持で良しとせず、常に挑戦していく思いを紡ぐ「高祭」を実現した第77回「高祭」から、今後どのように「高祭」が発展し、実を結んでいくかこれからも見守っていききたいと思っております。

## 新しい「高オリンピック」

第47回「高オリンピック」

実行委員会委員長

2年F組 大野 耀大

今年度の「高オリンピック」は、とにかく変化の多いものでした。トーナメント戦をリーグ戦に変更し、競技数についても昨年より絞って開催しました。さらに、連日の厳しい暑さに備えて、午前中のみ2日間開催としました。

はじめてルールの変更点を生徒に提示したときには、実にたくさん意見もいただきました。いずれも変更に対して否定的なものも多く、このままでは当日盛り上がるのか、不安は増す一方でした。不安が強く、よく眠れない日々が続いていたのを覚えています。

そして、ついに当日を迎えます。なんと2日間に分けての開催が決まったのは、開催の2日前でした。しかも、間に3日間の休日を挟みます。そんな困難な状況ではありましたが、実行委員一同力を合わせ、いくつかの運営のミスもありましたが、閉幕までやり抜きました。

心配だった生徒の反応ですが、アンケートの結果を見ると昨年からの変更点に対しては肯定的な意見を多くいただきました。これに

は胸をなでおろす思いです。新しい「高オリンピック」の形を作り上げたので、来年は3年生として後輩による運営を優しく見守りたいと思います。

## 「第56回歩く会」は私の宝物

実行委員長

2年A組 遠藤 鼓太郎

10月11日(金)。常陸風土記の丘をスタートし、旧本館までの23・40km(附属中は19・38km)のコースで歩く会を実施しました。

59人の委員とともにルート決定から企画し始めましたが、様々なルートが議論され、8月になるまでスタート地点もチェックポイントも決まりませんでした。そして、総務係の努力でギリギリの時点での決定となりました。総務係の皆さんには心から感謝します。

それにしても、何よりも素晴らしいのは、中心となった委員の皆さんです。厳しいスケジュールのもとでの準備を進める中であって、7人一体の協力態勢を最後まで崩さず、各々の仕事の熱を最後まで冷ますことはありませんでした。

私は、この実行委員長が初めて



の委員長の経験であり、この規模の行事の運営も初めてでした。委員の皆さん、先生方、ご支援いただいた各施設や企業のご協力あつての「歩く会」だ、と心から感じました。

この経験は、私にとって、人生の宝物です。今後もこの経験を活かしていきたい、と思います。

## SEG(アメリカ)研修を振り返って

2年B組 酒井 真悠

私は、SEGという密度の濃い研修の間にたくさん刺激的な経験をする事ができました。

まず、自分の英語力の未熟さを学びました。特に、アメリカの様々な研究室を訪問した際のことをよく覚えていてます。リスニング能力が足りないため、研究所の発言の内容がざっくりとしか分かりませんでした。細かいことが聞き取れれば、貴重な研究内容について深く知ることができると、それができずとも歯痒い思いをしました。机上の勉強だけに終わらず、スピーキングやリスニングといった実践力を大切にしていきたく強く思いました。

そして、アメリカという国の大きさも記憶に残りました。とにかく全てのものの規模が大きかったのですが、中でも記憶に残ったのは、自由行動で訪れた国立自然史博物館です。そこでは、世界最大のブルーダイヤモンド、ホープライヤモンドをはじめとする非常に価値のある展示物が、1日では見切れないほどたくさん展示されており、アメリカの強大さを物語っているように感じました。

他にもたくさん学んで、大変有意義なSEG研修期間を

過ごせたと思います。同窓会からはSEG研修に援助をしていただいています。このような貴重な経験を私にさせてくださった関係者の皆様に感謝いたしております。

### 復活した「修学旅行」

修学旅行実行委員長  
2年E組 百瀬 舜也

本校では、昭和17年の関西への「聖地巡拝旅行」以来、82年ぶりの修学旅行。私達は10月20日～23日の4日間、沖縄に滞在しました。

1日目は平和学習に臨み、平和祈念資料館やひめゆりの塔を訪れました。そこでの資料や経験者の方々へのインタビューの動画により、戦争の悲惨さを改めて知らされ、皆で犠牲となられた人々へ心から哀悼の意を捧げました。

2日目はクラス別行動を満喫しました。私達のクラスは鍾乳洞と美ら海水族館を訪れ、茨城では決して見ることのできないものばかりで、その神秘さと鮮やかさに圧倒されました。

3日目は班別タクシー研修で、私達の班は古宇利島や備瀬のフタギ並木に向かい、最後にマリン体験としてシュノーケリングを楽しみました。どの場所も息を呑む美しさで、忘れられない思い出になりました。



最終日も2日目と同様、クラス別行動でした。私達は沖縄の歴史と文化が詰まった首里城を見学し、火災の残骸や再建途中の状況を目にするのができました。今回の工事で改良される場所もあるとのこと、完成を見るのが今から楽しみです。

### 部活動報告

硬式野球部  
126期主将  
3年B組 橋内 凜太郎

「はい、よろこんで！」  
これは、仕事を頼まれた時の高野球部のモットーです。自分の利益だけを考えるのではなく、相手の期待を超える働きで応えることで、その積み重ねから応援してもらえるチーム、人間になる、と信じています。高野球部の長所のひとつです。



さて、今年の夏、久しぶりに予定されていた全校応援は、雨天で順延されたため、中止になってしまいました。それでもライブ配信だけでなく、球場でも多くの方々に応援していただき、大きな声援と共に全力でプレーすることができました。本当にありがとうございます。

### 弦楽部

部長 2年E組 谷本 万優子

私達の8割は高校から弦楽器を始めた初心者です。一人一人の技術は決して高くはないものの、息を合わせて合奏したときの一体感、息を合わせて心から楽しむために、奏者同士のコミュニケーションは欠かせません。そして、これが

弦楽合奏の楽しさや部の和やかな雰囲気、秘訣でもあります。そんな私達にとって、顧問の先生方や同窓生の先輩方、外部の講習会の先生方などのご指導は、大変貴重なものであり、そのおかげで高祭のコンサートでは、来場者の方々からたくさん嬉しい評価をいただくことができました。こうした日頃のご支援に感謝し、これからも練習に励んでいこうと思います。

### 伝統の継承へ、附属中の今

附属中教頭 淺野 洋平

附属中が開校して4年目。今年4月には1期生が初めての「内進生」として高校1年に進学しました。これまで附属中で培った経験を生かし、高校から入学してきた「高入生」とともに、新しい土浦一高の伝統を創り上げていくことを期待してやみません。

さて、今年もこれまで様々な教育活動が開かれてきました。入学した1年生は4月に「入門セミナー」を行い、附属中で生活していくための心構えについて、2年生、3年生、そして高校1年生からもレクチャーを受けました。附属中の生活にも慣れ、日に日にたくましくなっています。2年生は1年生の1番身近な先輩として、そして3年生を尊敬の眼差しで見つめながら日々成長しています。3年生は附属中のリーダー。随所でそのリーダーシップを発揮しています。

土浦一高が誇る三大行事の一つに「高祭」があります。今年の高祭のテーマは「黎明」でした。新しい何かが始まる、という意味も込められています。高祭を全力で楽しむ高校生を間近で見ながら、良き伝統を受け継いでいく。附



属中の新時代も楽しみます。部活動でも大いに活躍している附属中生徒です。市総体では全ての運動部が県南進出をかけた臨み、軟式野球部と剣道部が土浦市代表として進みました。特に陸上部の活躍は素晴らしい。関東大会、全国大会に出場する選手が出た他、団体でも県4位という好成績を収めました。



文化部活動もそれぞれのフィールドで意欲的に活動しています。吹奏楽部は県コンクールに出場し

ます。 附属中では、中学生生活のかけがえない「今」を大切にしよう生徒に働きかけています。特に行事や活動のたびに「実行委員」や「希望者」を募り、「挑戦心」を大事にしています。先日開催された、令和6年度の学校説明会では、実行委員を務めた生徒が主体的に活動する姿が、来校者の方にも賞賛されました。英語プレゼンテーションコンテストに挑戦している生徒は県南大会での審査に向けて、他校との練習会に意欲的に参加し、英語力を磨いています。今後の活躍に期待しています。また、3年生は一大イベントとして、昨年に初実施の奈良・京都方面への修学旅行が昨年と同時期の11月17、19日の2泊3日で行われました。全力で準備を進めたもので、一生の思い出になったに違いありません。

「何事にも全力で取り組む」  
これこそが土浦一高の誇る「二高スタイル」です。附属中生はこの伝統を受け継ぎ、ますますの発展のために努力を続けていきます。



今後とも、どうぞよろしくお願いたします。

### 定時制の活動

教頭 田中 豪一

コロナ禍も明けた今年度、4月9日に新たに37名の新入生を迎え、晴れやかに入学式を挙行することができました。現在、1学年から4学年あわせて95名が、学習や部活動、学校行事等に日々励み、楽しく元気に学校生活を送っています。

定時制の授業は、黄昏時の午後5時15分から始まり、8時50分まで続きます。教室は、本館2階東側で、全日制2年次と共用で使用しています。1時間目を終えたら給食の時間。栄養職員の方が作るポリウム満点の美味しい給食で、お腹も心も満たされます。

放課後には、部や生徒会が発に活動しています。グラウンドでは陸上部、体育館ではバドミントン部やバスケットボール部、卓球



部が、短い時間を上手に活用して練習に取り組んでいます。生徒会は、クラスマッチや星光祭(文化祭)など、各種行事の成功を目指して、定時制全体が盛り上がる企画づくりや運営に奔走しています。

### ◇定通体育大会◇

6月2日、定通体育大会陸上競技大会が石岡運動公園陸上競技場で行われ、女子走り幅跳び、男子3千m障害に出場した2名が、夏の全国大会出場の内切符を手に入れました。中でも宮寛泰君(4年)は、3千m障害で自ら保持つ県定通記録を更新し、大会新記録を樹立しました。昨年の全国大会では第4位に入賞しており、今年の全国大会でも有終の美を飾ってくれることを期待しています。

6月9日、定通体育大会男子バスケットボール競技が水城高校体育館で行われ、決勝で明秀日立高校に勝利し、昨年の秋季大会に続き県大会優勝を果たしました。男子バスケットボール部の全国大会出場は、平成13年以来、



23年ぶりの快挙となります。また、バドミントン女子シングルでも、吉田帆希さんが昨夏の全国大会第3位によりシード権を獲得しており、今夏も全国大会に連続出場します。

### ◇進路関係◇

令和6年3月の卒業生25名の進路先は、進学8名(内、大学1名、看専含む専門学校7名)、民間企業の就職が10名、その他7名でした。

定時制では、大学進学や専門学校、就職など、多様な進路に対応するため、進路セミナーの実施、就職希望者の面接指導など、生徒一人ひとりの希望に沿ったきめ細やかな進路支援を行っています。

また、3年間で卒業できる「3修3卒」希望者に対して、高卒認定試験のガイダンスや課外を実施するなど、個に応じた進路指導に努めています。

### ◇おわりに◇

個性豊かで多様なアイデンティティをもち、幅広い学齢や様々な背景を抱える生徒たちが、定時制とともに学び、ともに歩んでいます。

「競争」社会から多様な人々と共に創る「共創」社会へと、時代が大きく転換する中、多種多様な価値観に触れながら、仲間とともに切磋琢磨の日々を過ごす定時制での学びが、生徒たちの未来に必ず役立つと信じています。

### 職員室だより

#### 国語科より

国語科 大高 晃平

国語科職員室は、他教科とは異なつて2部屋あり、教室棟3階・4階の中央階段隣に位置しています。その部屋を全日制担当8人、附属中担当2人で使用しています。生徒の教室が近いからか、生徒が質問や相談に来ることも多いです。3階職員室には高2生と高3生が、4階職員室には高1生に加えて附属中生も来るようになりました。合わせて6学年が揃った現在の土浦一高・附属中において、国語科も更に活気あふれる職員室となっています。

国語科職員室には、本が所狭しと並んでいます。あらゆる出版社の辞書から文学全集に至るまで、日々の授業準備や生徒の質問に対応できる環境がここには揃っています(部屋の広さのためなのか、使用者の問題なのか、今も昔も物があふれる状況に変わりはなようです)。

国語科の教員との接点で最も印象に残っているのは、(記述問題や小論文の)添削ではないでしょうか。それは今でも変わっていません。毎年2月になると、多くの高3生が添削のために国語科職員室を訪れます。様々な大学の過去問の添削に追われることは我々にとつて大変ではありますが、同時に生徒の真剣な眼差しや成長に携われることに幸せを感じながら添削に取り組んでいます。土浦一高での学びがそれぞれの成長につながることを信じて、今後も生徒に向き合つて参ります。

進路状況報告

東大16名(国公立全国19位)
京大5名
東北大30名 筑波大34名
国公立大医学部医学科17名

進路指導部長 坂本 拓也

今年度の大学入学共通テストの志願者は、前年度より約2万人減少し、センター試験時代も含めて6年連続の減少となりました。出題傾向に大きな変化はなく、複数資料の提示、日常や学習場面を中心に問題解決を題材とした出題、教科固有の「思考力・判断力・表現力」を問うという特徴は継続しています。問題分量については、今年度も多くの科目で増加しており、教科の能力とは別に、「情報処理能力」が問われている面も否めません。平均点は、文系7科目型が+6点、理系7科目型が+9点と、昨年に引き続き上昇し、センター試験時代の平均点に近づいています。国公立大学の志願状況は、昨年並みでした。共通テストの受験者数が前年比96%だったことを考えれば、国公立大人気は続いていると言えます。共テ平均点上昇の影響もあり、志望を諦めない受験生が多かったことが窺えます。

文系・理系別では、文系の出願は前年比102%、理系は97%で、前年度入試とは逆の状況となりました。近年の労働力不足により、大卒の就職状況が比較的好調に推移していることが、文系の志願者増の一因とみられます。一方、文理融合型の総合情報系は、43%の大幅な増加となつて注目を浴びています。本校の合格状況については表の通りです。国立難関大学の合格者数は、北大10名、東北大30名、東大16名、一橋大3名、東京工業大6名、名大3名、京大5名、阪大4名、九大5名の合計82名で、前年比18名増という結果でした。他に合格者の多い大学は、筑波大34名、茨城大22名、埼玉大7名となり、概ね前年度と変わっていません。医学部医学科では、国公立大学に17名の合格者を出すなど、着実な成果をあげています。特に筑波大に推薦入試で2名、一般入試で3名が合格し、難関の東北大にも1名が合格するなど、1年次からの地道な取り組みで素晴らしい結果を残しています。

令和5年度入試合格状況

Table with 3 columns: 国公立大学, 合格者, 新卒. Lists various universities and their admission statistics.

Table with 3 columns: 私立大学, 合格者, 新卒. Lists private universities and their admission statistics.

Table with 3 columns: 大学校, 合格者, 新卒. Lists university schools and their admission statistics.

Table with 3 columns: 医学部医学科, 合格者, 新卒. Lists medical departments and their admission statistics.



進路後援会

令和5年度 進修同窓会決算書

収入総額 13,307,207円
支出総額 9,989,378円
差引残額 3,317,829円(次年度へ繰越)

令和6年度 進修同窓会予算書

収入総額 11,628,000円
支出総額 11,628,000円
差引残額 0円

Table with 5 columns: 項目, 予算額, 決算額, 比較増減(△), 備考. Includes rows for繰越金, 終身会費, 年会費, etc.

Table with 5 columns: 項目, 予算額, 前年度予算額, 比較残額(△), 備考. Includes rows for繰越金, 終身会費, 年会費, etc.

Table with 5 columns: 項目, 予算額, 決算額, 残額, 備考. Includes rows for総会補助, 会報発行費, 通信費, etc.

Table with 5 columns: 項目, 予算額, 前年度予算額, 比較残額(△), 備考. Includes rows for総会補助, 会報発行費, 通信費, etc.

上記のとおり決算しました。

※項目間の流用を認める。

令和6年3月6日

上記のとおり提案いたします。

茨城県立土浦第一高等学校進修同窓会会長 大野 金一

令和6年4月27日

監査の結果上記のとおり相違ないことを認めます。

茨城県立土浦第一高等学校進修同窓会会長

令和6年3月6日

監事 草刈 安明
監事 高山 了
監事 杉山 博

進修同窓会会報81号

令和6年12月1日

会報編集委員会

- 委員長 武井 秀一 (高23回)
委員 飯村 弘 (高5回)
竹井 茂雄 (高19回)
櫻井 忠男 (定53回)
原田 晋市 (高20回)
鴻巣 茂 (高21回)
豊崎 利明 (高25回)
大久保 彰 (高29回)
江田 麻裕子 (高34回)
大久保 博 (高37回)
校内 日向 久 (副校長・高36回)
浅野 周一 (全日制教頭・高38回)
田中 豪一 (定時制教頭・高44回)
浅野 洋平 (附属中教頭)
諸岡 重彰 (副参事兼事務室長)
本田 由佳 (教諭・高43回)

編集後記

同窓会々報第81号をお手に取っていただきありがとうございます。今年度は、82年ぶりで高校に修学旅行が復活。コロナ禍を乗り越え、沖繩での思い出を語る高2生の弾ける笑顔が美しく、印象的でした。...

住所変更手続きのお願い

住所や電話番号等を変更された方は、左記のEメールへ送信下さい。又同窓会会員名簿の不明者欄に掲載されている知人や友人がおりましたら、本人に事務局へ連絡するようお願いいたします。...

進修同窓会事務局

Eメール shinshu@tsuchinara1-hikked.jp
FAX 029-826-3521